



通のプラットフォームを構築する研究開発を進めている（図1）。提案するプラットフォームでは、クラスタリング技術と仮想化技術を活用することで、汎用ハードウェアを使いつつ高信頼性・高拡張性を実現する。

サービスアプリケーション側で信頼性や拡張性機能を開発する必要が無いため、サービスアプリケーションの開発量が減少し早期開発が期待できる。また、サービスと物理サーバを分離できることで災害時の運用性向上も実現できる。「この共通プラットフォームでは物理サーバの位置を意識せずにサービスを運用できます。物理サーバの配置をマルチロケーション化しておけば、ある地区の物理サーバがすべてダウンするような大災害が生じた場合にもサービスを継続できます。」（ネットワーク制御基盤プロジェクト ネットワーク制御サーバ方式 DP 栗生 敬子氏）

2014年2月より、同プラットフォームのフィージビリティ（実現可能性）確認や新たなサーバアーキテクチャの確立を目的に、日本アルカテル・ルーセントと富士通と共に図2のような役割の元、共同研究を進めている。

この共同研究では、同プラットフォームを用いた新たなサーバアーキテクチャの精錬化と、マルチロケーション環境下に必要な信頼性を実際に担保できるかどうかの検証などに力を入れていくという。「ハードウェアの故障などで当初確保していた冗長性が失われた場合に、それを自動検知して、自律的に新しい冗長構

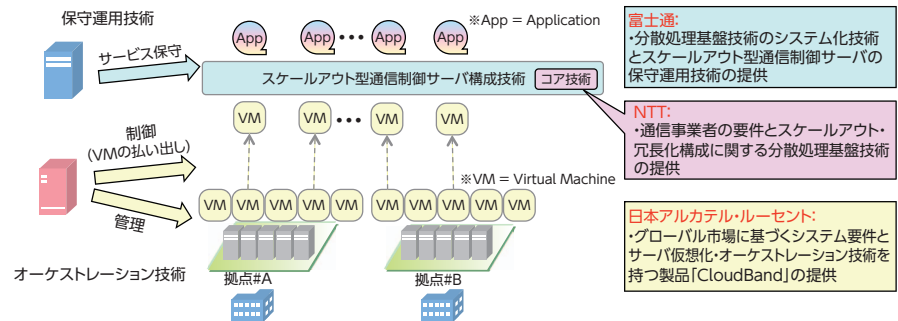


図2 共同研究するシステムの構成と参加各社の役割

成を構築できるかどうかなどについて検証を進めます。」（栗生氏）

### 「世界標準」を目指して標準化作業や仲間作り進める

共同研究のもう一つの目標が、このプラットフォームやサーバアーキテクチャを世に広めていくことである。

その第一歩として進めているのが、ETSI（欧州電気通信標準化機構）のNFV ISGによるコンセプト実証認定の取得活動である。同プラットフォームは、NFV ISGが規定する「仮想ネットワーク基盤サービス（VNPaaS）システム」に相当する。2014年4月4日にはETSIより認

定を取得し、同年5月14日には実働デモンストレーションを実施した（写真1）。「デモでは、アプリケーションの負荷が高まった場合にも自動的にハードウェア資源を補充できることや、物理サーバが故障した場合にも元の冗長性を自動回復できることなどを示しました。我々のシステムの有用性を十分示せたと思っています。」（白戸氏）

将来的には、このプラットフォームを世界標準にするため、ETSIや関連する標準化団体での標準化活動もスコープに入れているという。また、標準化に向けた取組みに加え、同プラットフォームの利用者や開発者との仲間づくりも進めている。広



写真1 ETSI NFV ISGの会で実施したデモの様子

く使ってもらうには、技術的な魅力だけでなく、マーケット的な魅力も必要である。ベンダだけでなく他のキャリアなどにも声をかけて一緒に取組みを進めていくという。